

- 3) H. KATAYAMA and H. KAJIOKA: Proceedings 4th Japan-USSR ISPCMP (1973), p. 156
- 4) M. OKAMURA, K. MORIYA, F. KAWAGUCHI, S. KOYAMA, and K. NARITA: Proceedings 4th ICVM (1974), p. 67
- 5) 片山裕之, 梶岡博幸, 稲富 実, 田中英夫, 細田秀人: 鉄と鋼, 63 (1977), p. 2077
- 6) A. G. IVANOV, A. G. SHALIMOV, and G. N. OKOROKOV: IZV. AN. SSSR Met (1970) 2, p. 96
- 7) K. DAVID and J. A. SCHMITZ: Arch. Eisenhuttenw., 43 (1972), p. 215
- 8) R. M. VISOKEY, G. P. BERNSMANN, and A. MCLEAN: Met. Trans., 3 (1972), p. 1163
- 9) 萬谷志郎, 篠原忠広, 戸崎秀男, 不破 祐: 鉄と鋼, 60 (1974), p. 1443
- 10) 長 隆郎, 森谷 徹, 井上道雄: 鉄と鋼, 64 (1978), p. 701
- 11) Y. NAKAMURA and M. UCHIMURA: Trans. ISIJ, 13 (1973), p. 343
- 12) 鈴木 鼎, 萬谷志郎, 不破 祐: 鉄と鋼, 56 (1970), p. 20
- 13) 小島 康, 佐野幸吉: 鉄と鋼, 50 (1964), p. 888
- 14) 鈴木 鼎, 森 一美, 伊藤洋平: 鉄と鋼, 55 (1969), p. 877
- 15) 成田貴一, 小山伸二, 牧野武久, 岡村正義: 鉄と鋼, 57 (1971), p. 2207
- 16) 井上道雄, 小島 康, 長 隆郎, 上川清太, 山田幸永: 鉄と鋼, 59 (1973), p. 205
- 17) H.-D. KUNZE: Arch. Eisenhuttenw., 47 (1976), p. 671
- 18) G. K. SIGWORTH and J. F. ELLIOTT: Metal Sci., 8 (1974), p. 298
- 19) 坂尾 弘, 佐野幸吉: 日本金属学会誌, 26 (1962), p. 236

統 計

主要先進国の実質経済成長率

表1はその長期的推移を示したものであるが、よく言われているように、70年代の実質 GNP 成長率は60年代に比べて大幅に鈍化している。

表2は1970~80年の実質経済成長率を示したものである。73年の第1次石油ショック以来、低迷していた先進国経済がようやく拡大し始めた矢先、79年以後の再度の石油価格上昇などによつて景気が総じて後退していることがわかる。すなわち、アメリカの景気は80年第2四半期に急激に落ち込み、第3四半期以降緩やかな回復を見せているが、年全体としては若干のマイナス成長となつたほか、カナダの成長も大幅に鈍化

表 1 主要先進国の実質経済成長率の長期的推移

年	地域	アメリカ	日本	西ドイツ	イギリス	フランス	OECD
51~55		4.2	—	9.4	2.9	4.1	—
56~60		2.3	8.5	6.6	2.4	5.0	—
61~65		4.7	10.0	4.9	3.2	5.8	5.2
66~70		3.2	11.3	4.5	2.5	5.4	4.8
71~75		2.6	4.7	2.1	1.6	4.0	3.1
76~80		3.7	5.1	3.6	1.4	(3.7)	3.5

- (備考) 1 全て年平均成長率。例えば 76~80 は80年/75年を年率換算して%表示した。
 2. アメリカ, 日本, 西ドイツはGNP, イギリス, フランス, OECDはGDP。
 3. アメリカは国民所得統計改訂後の新ベンチマークの統計による数値。
 4. 日本は、51~55年→61~65年は70年価格。66~70年以降は75年価格による値。
 5. イギリスは要素費用表示, 他は市場価格表示。
 6. () 内は 76~79 年の平均成長率。

し、西欧では、79年央から景気下降に転じていたイギリスが80年に入つて一層後退色を強くし、西ドイツ、フランス、イタリアも80年春頃から景気後退局面を迎え、81年初に至るまで概して後退ないし停滞を続けている。こうしたなかで日本は、拡大テンポこそ鈍っているが、依然としてプラスの成長を維持している。

表 2 主要先進国の実質経済成長率

年・期	78	79	80	80			
				I	II	III	IV
アメリカ	4.8	3.2	△0.2	3.1	△9.9	2.4	3.8
日本	5.1	5.6	4.2	5.6	1.5	5.2	1.9
西ドイツ	3.6	4.5	1.8	8.7	△8.0	0	△2.1
イギリス	3.2	1.6	△2.0	△2.5	△5.4	7.5	△1.5
フランス	3.5	3.1	1.3	1.6	△2.6	0.8	△1.3
イタリア	2.7	4.9	4.0	8.9	△3.5	△10.5	8.4
カナダ	3.4	2.8	0.1	△2.4	△4.5	1.8	8.4
OECD全体	3.9	3.3	1.3	1.1			$\frac{3^*}{4}$

- (備考) 1. 前年(期)比年率伸び率。四半期、半期別は季節調整済値。
 2. アメリカ, 日本, 西ドイツ, カナダはGNP。イギリス, フランス, イタリア, OECD合計はGDP。
 3. アメリカは80年12月の国民所得統計改訂後の新ベンチマークによる数値。
 4. 日本は75年価格による数値。
 5. イギリスは要素費用表示(他は市場価格表示)の実質GDPの平均系列(支出データベース, 生産データベース, 所得データベースの3系列の平均)。
 6. フランスの四半期別は産業分。
 7. * はOECDによる推計値。推計値の分母は幅をもつて考慮されるべきことを示す。

(通商産業省編: 昭和56年版通商白書(昭56), pp. 11~16)